（日曜日）　京城新聞　明治四十一年十二月十三日　第百卅四號

京城新聞

●趙農相の演說

趙農商工部大臣が農業技術官招待の席上に於てなしたる演說は左の如し

盛大なる[illegible]、諸君が一堂に會して產業に關する有益なる智識の交換をなしたるは本大臣の感謝に堪へざる所なり茲に小宴を設けて聊か諸君が數日の勞を慰する所あらんとす

世界有史以來現代韓國の如き貧乏國は未だ嘗て有らざるべし其の領土は溫帶に位して三面海を以て繞らし天然の利を享有して然も國民の敗人は少なく人民の生計常に乏しきを告ぐ吾人は新しき活路を求めて此貧窮より脫出するの覺悟無かる可らず

韓國をして現時の窮乏に陷らしめたる原因は[illegible]たるべき士人が政治文學等の空論に耽りて既だ是れ農業を卑とし一國の產業を顧ざりしと上の好む所下之を傚ひて庶民が農商工の事業に滿足せず徒らに官吏儒者たらんことを希望して其の業を廢て顧みざりしとに起因す[illegible]

[illegible]

詩に曰く周雖舊邦其命維新と維新とは從來の宿弊たる虛業と空論とを棄て全國を擧げ實業に傾注すると共に殊に農業國たる韓國は先づ其の農事を改良發達を圖りて饑飢を脫し溫暖に就き以て一身一家の計を修め一國の富強を企圖せざる可らず是れ實に眞正愛國憂世の士の事務に非ずして何ぞや

諸君の任務は實に韓國に於ける農事の改良に在り希くは諸君歸任の後農民をして其の業に安んぜしめ[illegible]以て農業の發達に努力せられん事を

今や政府は法律制度を改善して人民の生命財產の安全を保證し從來の惡弊たる誅求の跡を絕たん事を期す加ふるに地方に出沒する暴徒も近き將來に必ず鎭定せられて再び兵發の虞なかるべし吾人は此の好機會を利用して全力を殖產興業に注ぎ共に泰平の幸福に浴せん事を欲す地方在勤の韓日官吏は良く統監閣下と吾人の趣旨とを諒して協心同力此の事に從はれん事を切望に堪へざるなり

雜錄　●破窓閑語　む

○ツイ此の頃の事であつた。或人が僕に斯う云ふことを質問した。

人は何んが爲めに生れたりや。

○而して其の斷想は大分長たらしく、古聖先哲の夫れに對する信念[illegible]見解を述べ[illegible]たる上、更に[illegible]して、此の問題にして[illegible]解釋せられない[illegible]、蓋し人生の要義は闡明せられない、從つて諸種の問題を取[illegible]

[illegible]き程の意氣込であつた。

○其處で僕は其の人に對して、不躾僕の如きものが、到底貴下に滿足を與へる程の答への出來得べき筈なし、然れども聊か自ら信ずる所あれば其所信を披瀝することに[illegible]躊躇せぬ。雖然僕は貴下の問に答ふるに先つて、貴下に斯う云ふことを質したいと思ふ。他の事でもない、貴下は常に現社會に對して飽からざる不平を抱懷せられつゝ、斯くの如んば一日も[illegible]に過ぎずと[illegible]せられつゝあるに非ずや。然る此未だ其事なし、のみならず、疾病に罹るあれば藥餌を服用し、攝養を專らとせり、此れ矛盾の甚だしきものに非ずや、願くは其然る理由[illegible]を示せ。

と、然るに其人は意氣昂然たるもので、斯く答へた、

基督教信徒たらざる足下としては一應尤もなる疑問なるが、我宗教は自ら殺すことを大なる罪惡の一とすれば也。

果して[illegible]は又何んが故に[illegible]

[illegible]其生を[illegible]

僕は重ねて問ふた、

還は憮然として漸く答へた、

[illegible]と。其處で僕は斯く[illegible]主は聞く救へ玉へとや、果して然らば貴下は之れを他に求むるを已めよ、珠は徹底にあり、貴下[illegible]エスは、然かく[illegible]然かく平易に[illegible]非ずや。

生れたる者は活きざる可らずと。然り生れたる者は活きざる可らず、此の金口を他にして、他に又何をか索めんとはする。

鯛を食ふ其肉を食せば足る、書を讀む又其の如きのみ、溺るゝものは水を見ずと、現の足下の如き之れに似たらずや。

僕は更に敵語を繰返す、

生れたるものは活きざる可らず。

[illegible]說あらば讀んで聽かん。さ、

僕は斯く言つて而して徐ろに其人の答へを促した。（此篇未完）

浮世ぐさ　●麒麟輸入の始

日本に麒麟の輸入されし始は明治四十年三月十五日獨逸漢堡よりズヱルダ號にて橫濱に着したる麒麟二頭を始めとす同十八日夷船にて東京に廻漕し上野動物園に入れたり此の麒麟は今より二年以前アフリカにて生捕り獨逸へ[illegible]入れて飼養し[illegible]ーゲンベックの[illegible]有名なる動物商へ[illegible]更に我が動物園にて買ひ求めしものにして[illegible]價は約一萬[illegible]ツヘさいふ附添人付[illegible]

●歌留多會の始め

カルタ遊びの會の最もふるきは二十五六年ころ、東京醫科大學生の組織せる錦俱樂部及び彌生俱樂部の二つなるべしそれより年々隆盛の姿を呈し三十七年紀元節に東京歌留多會といふ大團体を生むに至れり同會は萬朝報の黑岩周六氏等の首唱に成り、當時は、各俱樂部とも選手を有して試合すること他の野球競技部と其趣を同ふする程に發達せり

（八十二）　河合柳葉





君子が大山から受取つた電報は、京都の山川孤舟から上京の日を通知して來たのであつたが、君子が大山の宅へ翫觀に往つた翌日の午後四時に新橋停車場に着く理なので、爲雅は君子の歡ぶ顏が見たいために、殊更に大山に命じて馬車を以つて出迎はしむることにされた果せるかな君子は非常に歡んで厚く爲雅に其厚意を感謝したのであつた。

時は移つて丁度三時の時計が鳴つたから大田は禮服威儀めしく、爲雅の室に伺つて、

「これより迎に參ります。」

と、挨拶すれば、爲雅は

「御苦勞だがやがて直に屋敷へ同道して下れ。」

「畏りましてございます。」

と、御前を退つて、玄關には[illegible]一種を取込むで居ります[illegible]にも何なりとござりませんで[illegible]ござりました、昨日は態々御越し下さいまして有難う存じます、厚く御禮申しまする、今日はこれより山川の[illegible]

[illegible]

「どうも目出度[illegible]……」

と、偶然と笑つた。

大山は、さては秘密を見られたかと、ギッタリ爲ながら、苦笑を洩らしつゝ、室を退つてやがて馬車を新橋に走らした、待ち間[illegible]なく四時着の列車は轟然として停車場に進み入つた。

大山はそれと見るよりプラットホームに入つて、今や列車より出て來た山川を早くも認め

「山川さん、[illegible]出ました、[illegible]御疲労なすつたでせう。」

と、景氣よく辭をかけた。

山川は不意に辭をかけられて其人を見ると大山であつたので、[illegible]と笑つて。

「[illegible]れ出迎ひ下すつて有難うございました。」

「彼方に馬車が待つてますから、御一緒に」

「馬車が、それはどうも、恐れ入りました、しかし私風情が馬車などに乘りましては冥[illegible]ら、御辭退なさるは却つて御厚意を無にするやうなものです、遠慮せずと御一緒に乘つて歸りませう。」

「では折角の御好意ですから、乘せて頂きませうか」

かくて、手荷物などは屋敷へ配達するやう夫々始末をつけて、やがて馬車に同乘して御室家に歸つたのである。

御室家では、豫め用意が出來て、室の如きも六疊の一室を山川の室と極めて、屋敷へ着くと同時に其室へ入つたのである、そして暫くすると、爲雅侯の御前へ伺候して一別後の挨拶から、此度の厚意を深く禮を述べた、爲雅侯も御機嫌麗しく、長途の旅勞を犒ふなど[illegible]何事にも遠慮せず、此家を我家と思ふやう、有難き辭を授けられ、それより、君子が室に往つて、久し振に顏を見合はしたが、以前に優る君子の姿を見て[illegible]山川も一瞥を與へたのであつた。

韓京覺帳（第四）

水浪生

●凡そ何事を爲すにも最も大切なるものは人物なり、彼の芝居に於てさわ舞臺は勿論脚本も大切には相違なきも最も大切なる者は俳優なり、若しも登場俳優にして大根ならんか歌阿彌や長谷川や亦た如何ともする能はざるものなり。

●要するに余の考案の實行と云ふも一の芝居を演ずるなり、此芝居に用ゆべき脚本は已に備御を了はる、次に起るは俳優の撰擇なり、雇入なり、此撰擇と雇入とは余にとりて最も緊要なりしなり

●京城の天地由來策士政客に富む、而かも一々檢し來れば多くは平凡の輩のみ彼等の多くは政權を欲すれども之に近くの術を知らず否知らざるには非ざれども大勢に抗してまでも危險を踏み事を舉ぐるの勇氣と先見とを有せざるの徒なり

●余の興行せんとする芝居は一六勝負的なり、一大勝負に耐する俳優は其人物も亦た大物ならざるべからず、彼の大度[illegible]ならざるべからず[illegible]

[illegible]學部大臣李完用[illegible]一進會[illegible]

方總長宋秉畯[illegible]

●余が李宋の二人を候補者と定めたる以蓋し故ありにて李に就てはスチーブンス氏大に其人物を賞し宋に就ては先輩某氏其人物の用ゆべきを說かれたるにも因るなり、當時余にしてス氏と某氏の眼識を誹ることなくんば或は撰擇を誤りたるやも知るべからず

●スチーブンス氏語て曰く李は往年外交官として米國に在り親しく文明を見世界の大勢を解す、從つて彼の有する政治思想は他の韓政客と自ら撰を異にす、彼今學部大臣として朴議政府に列すと雖も**心中決**して**平**かなるにあらずと。

●某氏語つて曰く宋は一進會に關係を有し日露戰爭以來親日を標榜し多少疏すところありと雖日韓兩側に於て彼の人物を危險なりとして用ゐず、彼れの**心中は今**や**不平**を以て鬱つ憎しき彼れの奇才と勇氣と**一進會**となりと。

●當時余は某氏の邸に寓す、宋秉畯亦事を以て時々同邸に來る、彼人に接して辭を卑ふし腰を低くすと雖ども其一言一動は大に投機的なり、余は一日彼れの心事を試みんが爲に彼を一室に引き示すに金玉筠の余に與へたる書簡を以て詳さに左の言を以て[illegible]

●[illegible]曰く金氏暗殺せられ[illegible]本年は十三年目なり、余等は故人の爲に東京に於て已に十三回忌法要を營みたり、君亦金氏の舊友なり、然かも當地に於て法要を營むべき主催者として當地に於て法要を營むべきは君は**韓皇**に遠慮し故人に盡す能はざるかと

●宋答て曰く余は日本人なる君より斯る言を聞きて慚愧に堪へず、余は金氏の法要を營むに就て何人にも遠慮するを要せざるを信ず、只態度不明なる統監府を如何せん、余にして**國賊の名ある金君**の爲に盛典を舉げなば統監府は或筋に御機嫌取の意味を以て余に禍を降すことのなからずやわと。

東京電報

▲**俘虜遺骨歸還** 本邦俘虜遺骨三十三今日賀茂丸より横濱に揚陸し陸海軍代表者愛國婦人會員其他五百餘名の出迎あり直ちに新橋に向け發送し築地本願寺にて追弔會を行へり

▲**上旬外國貿易** 本月上旬の貿易は二百九十萬圓の輸出超過なり

▲**麝香間祇候** 久我通久、[illegible]麝香間祇候仰せ付けらる

▲**岡澤大將危篤** [illegible]近來破傷風に罹り容体危篤なり

雜報

●ヘデイン博士期着

報導したるヘデイン博士は明十四日夜南大門驛に着せらるゝ筈にて京城より渡邊智部忠承井上雅二の兩氏出迎の爲め釜山に赴るゝと云ふ而して十五日午後六時より日本人倶樂部に於て官民合同の歡迎會を開かるべしと云ふ

●地方官資格審查會

官制の改正に依り郡守の任命は觀察使の推薦に依ることゝなしたりと雖も其の推薦に依り人物の適否は尚之が審査を要するが如し今回内部に地方官資格審査委員會を設き次官を以て委員とし又内部高等官中に委員を命じ其審査を經て適否を定め上奏の手續をなすことゝなし昨日第一の委員會を開催したるが委員は深田地方局長劉土木局長廉衛生局長平渡、宋、羅の三書記官金秘書官の七名なり

●京城經濟界

十一月金融狀況　日本人商業會議所調

本月中當京城に於ける金融狀況を調査するに前月來漸次順調に向ひつゝありし經濟市場は其上旬に於て米穀買出し冬物仕入等各方面に資金の需要を喚起したるも[illegible]が如き年末に近づきつゝある一般金融界は日一日緊忙を極め居れり殊に白銅貨の通用禁示に對する前途の懸念及清國に於ける兇變は當地清商の週間に渉る閉業休業或は本國に向け一時資金の急送等に依り韓人方面の金融をして一層逼迫せしめ韓商中二三の破産者を出すの已むなきに至れり然かも順境に向はんとする日本人側の經濟界に對しては何等影響を及ぼさゞるを見る從て各銀行を始め何れも近く前途の恢復を豫想し從來の引締を緩めつゝ相當貸金貸出しの傾向を示せり此趨勢を以てすれば年末に於ける當地金融界は著しき逼迫を見ずして無事越年するを得るならん乎今各銀行に於ける預金貸金及金銀出納高を日韓人側に區別調査すれば左の如し

△日本人側三銀行

	十一月	十月	增減
預金	七、〇〇一、三七四	六、九六三、六〇一	增 三七、七七三
貸金	三、二〇五、二八五	三、五七九、四九二	[illegible]

金銀出納高

	出	入
十月	[illegible]	[illegible]
十一月	[illegible]	[illegible]
增減	[illegible]	[illegible]

△韓人側四銀行

	十一月	十月	增減
預金	七四九、[illegible]	七八九、八八八	減 四〇、八七八
貸金	三一五、五六二	[illegible]	[illegible]

金銀出納高

	出	入
十月	二、三三三、三五〇	三、三三三、六三五
十一月	二、二三八、四八三	二、二三五、九七五
減	[illegible]	[illegible]

本表によれば前月に比し日本人側預金に於て三万七千餘圓を増加せり如斯預金に於ては大なる變動なきも貸金の約六分は直接商業資金に融通したるものにして市況に幾分の活氣を加へたるや明なり亦た韓人側預金に於て四万餘圓貸金に於て九萬七千餘圓を増加せり即ち預金の增加は市況に關係なき大口の取扱ありしに因る貸金の増加は米穀買出等に基因するものなるも目下の處差當り著しき變動なきが如し

●南洋道新設の議

政府は這回關税統一の好辭柄を設けて殖民政策破壞の端を啓けり關税統一の名は則ち美なりと雖も其實は臺灣の財源の比較的豐富なるに垂涎し國庫の窮乏を救ふの一助として其の收入の幾分を奪取せんとする目的より出でたる者にして或は鐵道統一或は通信統一の名に依りて將來多額の收入を國庫に移し入るゝの前提として案出したる者なるは疑を容るゝの餘地なく斯くては發達進歩の途に在る臺灣の運命を危くする者なれば此際同一地帶に在り經濟上の聯絡に於て相違の點なき沖繩と合併して南洋道を新設し交通運輸の便を啟け[illegible]未だ原始時代と相距ること遠からざる狀態に在る八重山、宮古兩島の利源を開發せしむると同時に沖繩縣に於て國庫を利益しつゝある二百五十万圓を南洋道廳より政府に支辨せしむるに於ては臺灣琉球の收入を以て熱帶地方の經營に精通せる吏員をもって琉球群島の産業は斯年ならずして大に發達すべく所謂一舉兩得の策なりとの議貴衆兩院内に起り第廿五議會に建議案として提出せんとて貴族院は奈良原男、衆議院は榊谷代議士主動者となり各派に賛成を求めつゝあり政府部内にも同一の意見を有するもの尠からざる由

●東大門外の土地問題

東大門外なる元宮内府牧場及び同地附近の未墾地を義和宮より某日本人に貸與したるに關し其の土地の所屬に關き疑義ありし事は既報の如くなるが右の土地の内元牧場たりし部分は義和宮所屬と認め其の他の未墾地は國有[illegible]と内定したりと云ふ

●稷山金鑛の發展

[illegible]夏八月以來作業停止中の同鑛は頗る有望なることの見込充分立ちたる結果今回[illegible]英國「ピンジグート」が或る條件の下に更に[illegible]協約成立の曉には日米英三國の組合にて採掘し再び作業開始せんとする由なり右英國「ピンジグート」は從來平安道殷山金鑛及び龍城金鑛にて失敗の歷史を有するものにして其代表者は英國を出發し近々渡韓する由△稷山金鑛の鑛夫賃銀未拂の件は一時不穩の取沙汰ありしも兩三日以前其幾分を支拂ひ殘額は本月十五日頃に支拂ふ條件にて一時無事落着せしと云ふ△老テイラ氏は一昨日南大門外の濟衆院にて療養中なりしか遂に老病の爲め死去せり葬式は本日執行せらる同氏は十數年前平安道雲山郡に在る東洋金鑛會社（米國會社）創設時代の技師長として頗る盡力せし人物にして鑛山生活せること殆んど五十餘年間、今年八十歲にして稷山金鑛に居るアルバート、テイラ氏の親父なりと謂ふ氏は米國カルフオルニヤ州マルマダ市の人なりと

●東京金融益々緩和

東京市中の金融は昨今新米の漸々出廻わる外際立ちたる資金の需用もなく商工業資金の引緩き減退の傾向あるに加へて月初により銀行諸公債の利拂ひ千數百萬圓ありしより銀行の遊金は稍や增加の傾向あり併し前途に大節季を控へ居ることゝて割引歩は依然二錢四五厘に持合ひ居れど稀には三厘の取引もあり[illegible]出方步合[illegible]借入[illegible]現況は右の如き傾向なる[illegible]上に本月は第一回國庫債券二千六百萬圓外に抽籤償還殘額約一千萬圓の支拂ひあるを以て歲末の金融市場は極めて靜穩に經過するならんと豫期せられ居れり因に日本銀行七日の報告に於ては政府預金の增加と民間資金の回收により兌換券發行高は二億七千二百萬圓に減少し一千二百万圓の發行餘力を生ずるに至れり

●滿鐵改革實行

滿鐵會社にては改革を實行し基礎縮少冗員淘汰のため今日までに罷免されたるもの約二百名尚他に二百人位あるべし又從來手當は俸給の倍額なりしを高給者五割増薄給者八割増に減じ俸給手當其他に於て一年約百萬圓位を減じ得る見込なるが如し

●五八の合併

百卅銀行にては今回姉妹銀行なる五十八銀行と合併の協議成立し兩行とも來廿四日臨時總會を開き合併案を附議する筈なるが其重なる條項は左の如し

一、株式會社百三十銀行及び株式會社第五十八銀行は互に相手方銀行の資産負債其他一切の權利義務關係を讓渡し茲に兩銀行の合併を協定し株式會社第五十八銀行を甲とし株式會社百三十銀行を乙とし甲乙雙方の間に契約すること左の如し

一、甲乙兩銀行は明治四十一年十一月廿八日に於ける甲乙兩銀行の貸借對照表を基礎として合併の決議を爲すものとす

一、合併決行の上は甲銀行の名義を存續し甲銀行の本店を本店とし乙銀行の本店を支店とす

一、甲銀行は合併に依り増加したる資本金[illegible]の内[illegible]濟の株式二萬株一株金五十圓の内十二圓五十錢拂込の株式四万株を乙銀行の株主に交付するものとす

一、甲銀行は合併決議前に於て金三十七萬五千圓の増資を決議し其株式七千五百株は甲銀行の株主に引受しむることを得

一、前二條の増資金三百三十七万五千圓に對する株式六萬七千五百株は有期優先株とし明治四十七年下半期迄其拂込額に對し一ヶ年百分の八に相當する利益分配の先取權を有せしめ且つ期限内に解散する場合殘餘財産が拂込みたる株金額に滿たざるときは先づ優先株の拂込金額に對して分配を受くるの權利を有せしむべし

一、明治四十二年一月一日以後合併決行迄の乙銀行の損益勘定は甲銀行と合併して計算を爲すべし

一、乙銀行は明治四十一年度下半期の決算に際し現在の繰越金を利益金に加へ株主に配當するを得ず

因に百三十銀行現在資本金は百六十二萬五千圓にして合併のため卅七萬五千圓を增資すれば都合二百萬圓となり尚五十八銀行の資本金三百万圓を加ふる時は合併後百三十銀行の資本金は合計五百万圓なりと

●鑑定價格の引下

仁川税關に於ける大豆鑑定價格が目下の市價より約一圓方高價なるを以て仁川輸出商が其の引下を請願したる爲め同税關は過日來委員をして其の調査をなさしめたる所果して輸出商の云ふが如く目下の市價頗る安く且つ何等細變の變動ある模樣なきを以て愈々價格引下を斷行することに決し一昨日關税局に之れが交渉をなしたりと云へば近々中其の斷行を見るべしと云ふ

●仁川回穀の增加

仁川に於ける廻穀が本月に入り一時に激增し來りたることは數々記す所なるが今仁川穀物協會に就き本月上旬十日間中に於ける取扱ひ高を聞くに△籾三千六百五十九石△玄米二千百四十四石△白米五百九十石△大豆一万五千四百九十五石△小豆四百三石の多きに達し居れるが之れを去月中に比すれば驚くべき增加を示し居れり即ち去月一ヶ月間に△籾は三千七百七十三石△玄米二千百三十六石ありたるのみにして本月上旬中僅々五千八百三十九石ありたるのみなるの入津額と比較せるが大豆に至りては去月中は本月は上旬中既に一万五千石の入津を見居れるが今後本月中に仁川に入津すべき大豆は尚五万石を下らざる豫想にて一ヶ月間約七萬石の入津ある見込みなりと同協會員は語れり

●大邱米況

一、△正米亦々暴落　期米は遂に十三圓五十錢に低落し向勢一段の弱氣配なるより釜山穀物市場に於ても更に手合せ出來ず只地方よりの出廻り米無暗と嵩張るのみ現に釜山在米は十万俵を越ゆたりと聞くも輸出殆んど杜絕の姿なるを以て市況益々不勢に陷り[illegible]然らば買進む勇氣なく只市内精米業者及小賣商間に合せ買をなすに過ぎず[illegible]

上白	九圓見當	一桝二百二十文
中白	八圓[illegible]	同百[illegible]十文
玄米	七圓二十錢	同百七十文
糯米	八圓五十錢	同二百文

●仁川の人口戶數

十二月一日現在の仁川に於ける戶數及び人口を聞くに戶數は三千八百十五戶にして人口は男五千九百九十四名、女五千二百四十名合せて一万一千二百三十四名なりと云ふ

●練習艦隊の拔錨

過日仁川に入港せる練習艦隊阿蘇及宗谷の二艦は昨日仁川を拔錨し大連に向ひたり

●木杯下賜　釜山日本戰友會副會長楢於鬼太郎十月廢兵院へ金四百十七圓九十九錢寄附の段奇特に付統監より十一日木杯一組下賜せらる

●本田技手の出張　本田農商工部技手は畜産に關する講話のため義州、龍岩浦、鐵山、宣川の地方に出張を命ぜられ往復十日間の豫定にて明十四日出發す

●香阪法務院長の出張　[illegible]元山城津[illegible]咸興地方に出張せらる

●桐原警視令孃の訃　南部警察署長桐原警視令孃千代子（十五）孃は豫て病氣療中なりしが昨夜遂に死亡されたり孃は南大門高等女學校第二年生にして頗る秀才の聞へ高かりしと葬儀は今十三日午後一時より[illegible]にて執行の筈

●叙任及辭令　度支部翻譯官兼秘書官　[illegible]武二郎　任臨時財産整理局事務官

公人私人

▲三浦直五郎（木浦勸業模範所技師）十一日木浦へ向け出發
▲佐藤政次郎（同）同上
▲横地鉦二（海軍大尉）十一日仁川へ向け出發
▲青柳四郎（判事）十一日入城山本旅館

●今日の集會

●京城日本基督教會　午前十時より　處世と信仰　石原牧師　午後七時半より　傳道說教

●日本メソヂスト教會　旭町二丁目なる同教會に於て本日午前及午後の兩回左の集會あり　聖餐禮式　朝九時半　聖書講義　同十時半　新生の幸福　二大譬喩　木原牧師　夕七時　悔改の好機　傳道說教　木原牧師

●十三日午後七時伊藤講教使の說教　長谷川町　西本願寺

●京城基督教會　日出町　朝十時　赤子の心情　米澤牧師　夕七時　偉人の靈感　同人

近事片々

▲伊藤公も本年は珍らしくも越年せらるべしとは先づ大[illegible]局面展開は如何
▲伊公が渡城せざれば[illegible]
▲南山麓の統監旗を本月中に撤せらるゝは韓人輩の[illegible]公は韓人に[illegible]待てる哉
▲[illegible]して對韓政策の整理をなすべしと
▲[illegible]然らば最早徐々開樣して觀者を喜ばす可也
▲整理もよし刷新も可なれども第二協約の精神を活躍せしむるが公の一大責ならん
▲長谷川大將歸城するよしされど大將は此らず後任の決定するまでなりとは眞乎
▲後任は川村大將なるべしとの說あり川村將軍は日露の際鴨綠軍司令にて勇名あり
▲併し長谷川大將が駐韓軍司令官をやめると云ふ事は考物也將軍既に韓に威名ある
▲威名あると共に韓の事情に精通し居れば眞にやめるとすれば統韓政治に影響せむ
▲將軍が軍事參議官に榮轉するは賀すべしと雖も統韓政治の爲には惜まざるを得ず
▲後任者を危ぶむに非ざるも統韓政策上長谷川將軍の居方が得策なるに非ずや如何
▲頑者韓政客が種々なる會を興して其會長となる者多し之れ窮餘の策にあらざる乎
▲斯くして會費を徵收し以て自己の費を辨せんとするが目的ならば墮落も此上なし
▲溫厚寡默なる趙義淵氏迄が酒商組合杯を興して其會長たるに至れりとは事實にや
▲命吉[illegible]氏の負褓商張國氏の鐵道其他李夏榮氏の山林協會等舉け來れば屈指し難し
▲渠等が會長或は總裁となるは部下に小策士ありて擔ぎ上げらるゝにも依るならん
▲實際實業界に身を投ずる意あらば甚だ嘉すべけれど之を政權運動に利用するは非
▲總て何物も政權運動に利用するは韓國政客の癖之を除却されば韓全の發達難し

宮内府の大面目

……外人曰く……

……小宮さんは大法律家……

過ぐる十月二日韓皇には水原に行幸され李朝五百年間の一大盛儀として萬民歡呼の情溢るゝ許りなる當日之れは又不辞にも宮内府主馬寮に奉する馬丁某といふが電氣鐵道の爲めに壓殺され恥なき最後を遂げたる椿事は當時の新聞紙に依りて世人の一般に熟知せる所なるが其の後宮内府に於ては死亡者の遺族の爲に電氣會社に向つて大枚二萬圓の損害賠償を要求したる

暴徒の跳梁

去る六日午後十一時……

宮信閣改造

猛虎人を噬む

船乘りの大格鬪

嬰兒の死体

濕婦たきくの素性

耶蘇教徒逮捕さる

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾貳錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
京城西署西小門外
發行所 京城新聞社
電話六三六番